東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2008年9月19日

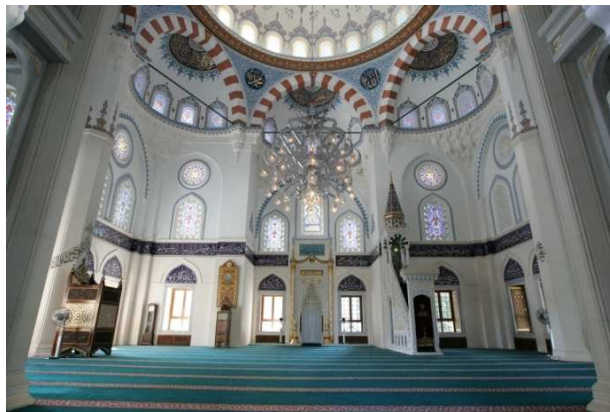
# マスジドとその徳

親愛なるムスリムの皆様。地上における礼拝場所の建設は、最初の人間であるアーデムさまによって始まりました。これらの礼拝施設は、アッラーへの崇拝行為としもべとしての行為を行う家であることからバイトゥッラー（アッラーの家）、アッラーにサジュダを行う場所であることからマスジド、人々が一箇所に集まり、共にしもべとしての意識を形成するための場所としてジャーミ（集まる場所）という名称がつけられてきました。

アーデムさまと共に始まったモスク建設は、イブラーヒームさまがカーバを建設することによって引き継がれました。預言者ムハンマドも、預言者モスクを建設し、新たな発展をもたらしたのです。

預言者ムハンマドはマディーナに聖遷を行った際、自分の家を建てる前に、預言者モスクを建設し、新たに造る町の中心部にモスクを位置づけたのです。このお方のこの行為はムスリムたちにとって一つの模範となり、イスラーム軍の将校たちは制圧した国における最初の仕事としてモスクを建設し、地上のあらゆる場所をモスクによって飾ったのです。

親愛なるムスリムの皆様。モスクや礼拝所を建設すること、建設されたモスクを発展させ、活気付かせることは、信仰とイフラースのしるしとなります。アッラーの名が念じられることを妨げること、混沌状態に陥る要因となることは大きな残虐行為と見なされます。崇高なるアッラーは次のように仰せられておられます。「アッラーのマスジドは，ひたすらこれらの者（信者）によって管理されるべきである。（すなわち）アッラーと終末の日を信じ，礼拝の務めを守り，定めの喜捨をなし，アッラー以外の何ものをも恐れない者だけである。」（アッ・タウバ章第 18 節）「アッラーの聖なるマスジドで（人びとが）その御名を讃えるのを妨げたり、またそれを破壊しようとする者よりも不埒な者がどこにいるだろうか。」（雌牛章第１１４節）

ムスリムの皆様。モスクはまず、タウヒードの信仰に基づいてアッラーにしもべとして使える意識が息づき、定着していく聖なる空間です。だから、モスクにおいてはアッラー以外の何者にも崇拝行為が行われないように、アッラーと同等にしてそれ以外の何かにドゥアーが行われることもないのです。アッラーは次のように仰せられておられます。「本当にマスジドは（凡て）アッラーの有である。それでアッラーと同位に配して他の者に祈ってはならない。」（アル・ジン章第１８節）

預言者ムハンマドの時代から今日まで、礼拝所はタウヒードの教育に加えて、イスラームの兄弟愛が形成され、ムスリムたちの社会生活における原則や基準が定められ、愛情や敬意、服従や崇拝行為のラインが定められてきたという宗教上・社会上の特質を持った場所であってきました。

アッラーの家であり、預言者の位階であり、ムスリム達の場であるモスクや礼拝所を守り、新しいものを建設し、補修が必要であれば修理を行うこと、崇拝行為や布教を最も優れた状態で行なうことは信者として私たち全ての任務です。モスクは、清らかさの観点からそれぞれが真珠であり、美と建設の観点からそれぞれが優れた作品であり、奉仕の観点からは他に類のない場であることは、私たち皆にとって信仰上の責任なのです。

今日のフトバを、預言者ムハンマドの聖ハディースによって締めくくります。「アッラーのご満悦のためにモスクを建設する者には、アッラーも天国で彼の為のあずまやを造ってくださるであろう。